

臨床・教育の現場で倫理を語ると何が起きるのか～体験談を共有しませんか～

○高木 美歩¹⁾、矢治亜樹子²⁾、小倉 圭介³⁾、富樫 剛清⁴⁾、葛島 慎吾⁵⁾、田代真利子⁶⁾、
前田 愛⁷⁾、西 将希⁸⁾、板橋朱麻留⁹⁾、井出 晶恵¹⁰⁾、本武 敏弘¹¹⁾

- 1) 一般社団法人メンタルヘルスサポート九州 訪問看護ステーション アトラス福岡、
2) 西南女学院大学保健福祉学部看護学科、3) 順天堂大学医学部附属浦安病院、
4) 医療法人社団積信会長谷川病院、5) 宮崎県立看護大学看護学部、6) 東京女子医科大学看護学部、
7) 昭和医科大学横浜市北部病院、8) 帝京大学医療技術学部看護学科、9) 淑徳大学看護栄養学部看護学科、
10) 東京女子医科大学大学院看護学研究科、11) 福岡女学院看護大学

ふとした瞬間、同僚の言動や学生指導の場面で倫理的な違和感を覚えることはないでしょうか。相手の価値観を否定するのは忍びないが、全面的に支持するには抵抗がある... 時に、自分だけがモヤモヤしているのではないか、自分の感覚がおかしいのではないかと悩むこともあるでしょう。そんな日常の倫理的葛藤について、どのように対処していますか？本ワークショップでは、そのような倫理的葛藤への働きかけについて、参加者同士で体験を共有し、共に考える場をつくりたいと考えています。

私たち企画者は、日々の実践の中で倫理を語ることの難しさを痛感しています。これまでに開催したワークショップでも、参加された皆さんと体験を共有するなかで、倫理的葛藤を抱えながらも問題提起によって孤立してしまう懸念や、組織の中で倫理的な議論を行うことへの躊躇など、状況を変えたくても変えられない様々な障壁が存在することが見えてきました。

そこで今回のワークショップでは、これらの課題に正面から向き合いたいと思います。倫理について語ることで何が起きると考えているのか、何を恐れているのか、語ることを躊躇させる要因は何かについて率直に話し合いたいと思います。また、倫理的葛藤を抱えながらも変革に向けて取り組んだ経験や、コツコツと組織変革に挑戦した体験なども共有できればと思います。

本ワークショップでは、教育者と臨床看護師からの体験談プレゼンテーションを通じて、参加者が安心して発言できる雰囲気をつくりたいと考えていま

す。その後のグループワークでは、参加者それぞれの体験や思いを共有し、互いの意見を尊重しながら議論を深めたいと思います。

このワークショップが、単なる苦労話の共有に留まらず、困難に直面している方々へのヒントとなる場になればと願っています。また、「自分だけじゃない」と気づき、共感できる仲間やつながりを見出す機会となることを目指しています。これらを通して、倫理的課題に対する新たな視点や、自身の倫理観を再確認する機会にもなるかもしれません。このような学びを「おみやげ」として、参加者の皆様の職場風土を変える一歩につなげていただければと思います。例えば、倫理的な対話を促進するためのコミュニケーションのヒントや、倫理的葛藤に直面したときの考え方など、明日からの実践に少しでも活かせる気づきを得ていただければ幸いです。

倫理的配慮として、このワークショップの中でお話しいただいた個人情報、ワークショップの中だけで扱い、外では話さないことを最初に約束させていただきます。これにより、参加者の皆様が安心して率直な意見交換ができる場を保証いたします。

このテーマにご関心のある方ならどなたでも、どうぞご参加ください。同じような悩みのある方、手応えのある実践をしたことがある方、倫理について語りたい方、倫理的感受性を高めたいと考えている方など、たくさんの方のご参加をお待ちしています。共に学び、明日からの実践に活かせる有意義な時間にしていただければと思います。